

つるおか芸文だより

第18回 鶴岡市芸術祭開幕

第18回鶴岡市芸術祭開幕式典が、9月2日(土)鶴岡アートフォーラム交流広場を会場に、ご来賓・芸術文化団体関係者など約90名が出席し行われた。

式典では、主催者挨拶として布川教育長が「それぞれの発表の場で、皆さまが精進を重ねられた結果を十分に発揮されることを願う」と

もに、今年も爽り多き芸術祭となる事を願っている」、「続いて東山芸文協会長が「芸術祭の成果を市民の皆さまと共に喜び、感動を共有し合えるよう盛り上げていきたい」と述べた。

また、ご来賓を代表して皆川鶴岡市長が祝辞を述べられ、荘内金管合奏団のファンファーレで関係者によるテープカットを行い、芸術祭の



「心の瞳」を合唱する鶴岡南高等学校音楽部



芸術祭開幕を飾るテープカット

幕開けを祝った。鶴岡南高等学校音楽部の皆さんより祝唱が2曲披露され、会場には美しい歌声が響き渡った。
今年、45団体による38の公演や展示が、8月30日の白甕社展を皮切りに12月3日まで約3カ月に渡り各会場において開催される。

コロナ後の新しい
世界創造に共に励もう!!



特定非営利活動法人
鶴岡市芸術文化協会
会長 東山 昭子

第18回鶴岡市芸術祭は、令和5年度県民芸術祭に参加協賛して、9月2日開幕式を開催しました。ご来賓、選考委員、加盟各団体代表者など、90名余の方々のご参会を得、いよいよ始まる3ヶ月間に期待新たなものがありました。式典最後を盛り上げて下さった鶴岡南高等学校音楽部の皆様、澄んだ響く声が胸に透りました。感動深く出発できましたことに感謝です。酷暑炎熱の夏にも心の泉涸らすことなく、制作に練習に励んで来られた会友の皆様、組織的に市民交流のできるこの機会を活かし、ステージや展示場に思い切り力を発揮し交流の輪を広げて下さい。今年「鶴岡物語III―結ぶ」の開幕公演は中止としました。コロナ感染は今までの世界観を替えさせました。新しい人材発掘と市民に開かれた芸術文化の拠点タクトの使い勝手の良さを共に考え、組み立て直す努力を続ける機会を別に考えて参ります。豊かに内在する鶴岡地域の総力を結集し、素晴らしい公演と笑顔で交歓し合う市民各層の輪を拡げて参ることに専念します。99年、95年等長い年輪を刻んできた団体もあり、いま革命的に進む情報社会の中で、人間の持つ可能性の美しさ豊かさ、深さを求め続けて止まない芸術文化の伝統をつなぎ、絶頂のオンラインワンを目指しての共感で芸術祭を盛上げて参りましょう。

令和5年度通常総会が開催される

令和5年度特定非営利活動法人鶴岡市芸術文化協会通常総会は、5月30日に東京第一ホテル鶴岡で、鶴岡市教育委員会布川敦教育長はじめ来賓、加盟団体代表など約70名が出席して開催された。

東山会長はあいさつで「今年はアフターコロナにおける芸術文化活動について、新たな活動ビジョンを確認し合うため、一年かけて会員の皆さんの意見を聞きながら取り組んでいきたい。市文化芸術推進計画のもとに、不易流行の心を活かしながら鶴岡の良さを守り続けていきたい、会員の皆さんのご協力をお願いする。」と述べられた。

総会では、令和4年度事業活動報告並びに決算報告、令和5年度事業活動計画並びに活動予算が原案どおり可決承認された。

また総会后、功労者表彰式が行われ、日本九重流鶴城清吟会前会長、芸文協監事の松本武雄さんに会長より功労者賞が授与された。その後、4年ぶりとなる懇親会が同会場で開催され、松本さんの功労者賞を祝福するとともに、来賓や会員同士での親睦交流を深める機会となった。



東京第一ホテルで初めて開催した通常総会

特定非営利活動法人 鶴岡市芸術文化協会役員

会長	東山 昭子
副会長	小林 健郎
副会長	難波 正喜
副会長	榊原 賢一
理事・事務局長	梅津 芳春
理事	高部 千代子
理事	三井 薫
理事	渡部 一彦
理事	佐藤 美由美
理事	古本 真由美
理事	松本 武雄
監事	齋藤 敬

令和5年度 事業活動計画

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

本年度は、鶴岡市文化芸術推進基本計画の趣旨を活かし、会員の一層の意識高揚と融和協調を図り、本市の文化芸術振興のため鋭意努力する。

1 事業実施の方針

- 第18回鶴岡市芸術祭を事業の中心に据え、市民の芸術文化活動の振興および拡大を図ると共に、アフターコロナにおける芸術文化の新たな展開を検討する機会を設ける。
- 若い世代の育成支援として文化芸術の継承発展のため「こども文化クラブ」
- 事業を推進する。
- 本法人の事業内容の周知・広報に努め、情報共有と新規会員の加入促進を図る。
- 鶴岡市文化会館の指定管理者（タクトつるおか共同企業体）として、文化会館の適切な管理運営に努め、芸術文化の振興に寄与する。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名	具体的な事業内容
1 芸術祭の開催事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 第18回鶴岡市芸術祭の開催（鶴岡市教育委員会との共催） ● 第18回鶴岡市芸術祭開幕行事 ● 第18回鶴岡市芸術祭閉幕のつどい
2 芸術文化創作活動、発表活動の振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 芸術文化活動、交流への支援としての後援承認等
3 加盟団体、会員相互の連携、交流・顕彰事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 功労者表彰規定に基づく表彰
4 次世代の育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 市補助事業として「こども文化クラブ事業」の実施
5 会報発行等の広報活動事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 会報「つるおか芸文だより」の発行（年2回） ● 本会ホームページの運用
6 文化施設の整備促進、利用促進、管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 鶴岡市文化会館の管理運営業務の受託（指定管理）
7 各種芸術、文化に関する発表会、公演会等の共催、後援事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員が主催・共催する発表会、展示会および全市芸術的文化事業への協力（共催・後援）
8 その他目的達成に必要な事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 庄内地区芸術文化懇談会への参加 ● 鶴岡市文化基金協議会運営への協力 ● 市内芸術文化活動未加盟団体等の情報収集

令和5年度

鶴岡市芸術文化協会功労者表彰



鶴岡市芸術文化協会 監事
前日本九重流鶴城清吟会 会長

松本武雄氏

日本九重流鶴城清吟会の会長として、会員相互の融和を図り、会の運営発展に尽力されるところにも、教場長として、会員の育成・吟詠指導にも力を注ぎ、九重流詩吟の普及発展に寄与されました。また、平成30年度より当協会役員として法人運営に多大な貢献をされました。

第46回山形県芸術文化協会賞受賞

東山昭子氏

(鶴岡市芸術文化協会 会長)



●受賞対象

出羽庄内酒井家
入部四百年記念
「庄内風土の美
— 酒井家十七代
源忠明氏のうた
にみる—」



酒井忠明氏の歌歴70年にわたる作品をテーマ別に再編し、作品の周辺を細部に知る者の感想を添えて酒井家の歴史や文化事業への関りを文学化。酒井忠明氏の短歌を通し編著者自身の庄内への愛を表現するとともに文芸の場、文芸の視点で庄内を語った作品である。

大賞に 表現舎刻一刻

令和4年度 県民芸術祭

奨励賞 ステンドグラス“光彩”

山形県芸術文化協会の令和5年度通常総会が令和5年5月27日(土)に山形グランドホテルで開催され、令和4年度第60回県民芸術祭賞贈呈式も併せて執り行われました。当会から県民芸術祭へ参加した中から2団体が受賞し、表現舎刻一刻が栄えある県民芸術祭大賞を受賞、また初参加となったステンドグラス“光彩”が奨励賞を受賞しました。



表現舎刻一刻

領民の立場から描いた「庄内藩三方国替騒動記」と、沖縄戦争の悲惨さと平和への願いを大衆演劇的な手法や巧みな照明・音響、語りによる総合舞台の二部制の創作劇。キャストが巧みな構成の中で好演し、創立35周年らしい大型の歴史舞台として平和へのメッセージと深い感動を与えた。



ステンドグラス“光彩”

多くの種類の作品がコーナー毎に展示してあり見やすく、光とガラスの色が調和し生み出す幻想的な世界観を表現した展覧会であった。

鶴岡市芸術祭賞 選考委員のみなさん

氏名	担当部門
後藤 和夫	邦楽、日舞、民謡・民舞、吟詠
小林 功	邦楽、日舞、民謡・民舞、吟詠
難波 正喜	邦楽、日舞、民謡・民舞、吟詠
齋藤 敬	邦楽、日舞、民謡・民舞、吟詠
堀 公明	洋楽
藤間静貴久	洋楽
梅津 芳春	洋楽
村山 智昭	洋楽
五十嵐悦郎	洋舞、演劇
鈴木 豊苑	洋舞、演劇

氏名	担当部門
岩松 美代	洋舞、演劇
小林 健郎	展示、茶道、華道
佐藤よし子	展示、茶道、華道、文芸
佐竹美津子	展示、茶道、華道、文芸
齋藤健太郎	展示、茶道、華道
布川美與子	展示、茶道、華道
佐藤 嘉男	展示、茶道、華道
佐藤 潤子	展示、茶道、華道
柿崎 泰裕	文芸
榊原 賢一	総括(事務局長)

鶴岡市芸術祭 協賛金制度の概要とお願い

鶴岡市芸術祭協賛者とは

「鶴岡市芸術祭を加盟団体だけでなく、市民からもよく理解していただきたい。多くの市民に観ていただきたい。」という趣旨に賛同して、一口2,000円の協賛金を負担してくださる個人、企業等の方であり、芸術祭の役員でもありません。協賛いただいた方には協賛者証を発行し、個人であれば個人名を、企業であれば企業名を記入してもらい、協賛者証の提示によって、原則、全ての芸術祭参加公演を1枚で1人が無料で鑑賞できることを申し合わせています。

鶴岡市芸術祭協賛者証とは

協賛者証は、協賛者に自らが芸術祭の一翼を担う役員であるという自覚を持つていただくとともに、芸術祭を理解していただきやすいように、公演内容を一覧にして掲載しています。そのため、協賛者証は、協賛者個人又は企業に帰属するものであり、単なる入場券ではありません。

協賛者証を使用する際の鑑賞は、協賛者制度の趣旨を良くご理解の上、適切にご利用にご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年度 庄内地区芸術文化協議会・懇談会が鶴岡市で開催される

令和5年度庄内地区芸術文化協議会・懇談会が、当協会が幹事となり、7月4日荘銀タクト鶴岡を会場に、県芸術文化協会鈴木会長はじめ庄内地区の各芸術文化協会会長、行政担当者など合わせて24名が出席し開催された。鈴木県芸文会長より、創立60周年記念事業についての報告、今年度活動方針・事業計画等の説明を受けた後、各地区芸術文化協会からコロナによる活動への影響、会員の高齢化・減少など団体の抱える現状と課題

について報告があり、参加者で共有するとともに、次期開催は三川町が担当することを確認し閉会した。

また、会議終了後、隣接する旧庄内藩校致道館に移動し、富樫恒文統括文化財保護指導員の案内で施設内を見学した。鶴岡の教育風土を形づくってきた藩校致道館の教育精神についての説明を受け、参加した方々は来年度新たに開校する庄内地区中高一貫校「致道館」の今後に思いを巡らせていた。



芸文協議会の様子



旧庄内藩校致道館を見学

令和5年度 こども文化クラブ事業について

令和5年度の事業計画

鶴岡市総合型文化クラブ事業助成を受けて実施する「こども文化クラブ事業」は、次世代育成事業として子どもたちが芸術文化に触れ親しむ機会を通じて、豊かな心と感性を育み、次世代への継承・発展につながることを期待している。

今年度はコロナも落ち着いてきている中、市中央公民館との共催事業として、市内全域の小学校児童を対象にした体験講座（ちぎり絵、文化箏）を6、7月に開催した。また、地域の放課後子ども教室と連携しての講座は、7地区で6月から来年2月まで12分野で実施を予定しており、藤島地区では東田川文化記念館との共催で計画している。子どもたちが活動の成果を発表する機会をつくりながら、達成感を味わい、自信につながることを期待したい。加



【ちぎり絵】中央公民館



【文化箏】中央公民館

事業内容

盟団体から派遣の講師やアシスタントの皆さんには、引き続きご協力をお願いします。

1 鶴岡市中央公民館共催

① 実施日 6月から7月

② 分野 ちぎり絵、文化箏

③ 会場 鶴岡市中央公民館

2 放課後子ども教室連携

① 実施日 6月から2月

② 分野 短歌、ちぎり絵、造形、

絵画、ステンドグラス、文化箏、

尺八、フラダンス、演劇、ミュージカル、茶道、華道

③ 会場 上郷、三瀬、由良、湯野

浜、大山、西郷、鼠ヶ関

③ 東田川文化記念館共催

① 実施日 8月から9月

② 分野 ミュージカル

③ 会場 藤島公民館

荘銀タクト鶴岡5周年とこれから

荘銀タクト鶴岡は2018年にオープンして今年で5周年を迎えました。5年のうち約3年は新型コロナウイルスに苦しめられ、多くの事業が中止となりました。それでも皆様の支えもあり、今できることをやろうと、市民団体へ依頼し合唱のコロナ対策実証実験を行ったり、ユーチューブへの動画投稿を開始したり、様々な事業に取り組んでまいりました。現在は新型コロナウイルスも5月に引き下げられ、通常の公演を開催して皆様に生の芸術を届けることができ、大変嬉しく思います。今までは、J・POPアーティストやクラシック公演などの鑑賞事業を多



9月30日の第九公演に向けての練習風景



0歳から入れる！親子で楽しむ音楽会 クラリネット&ピアノ
職員もダンスを練習して子供たちと一緒に踊りました。

く開催してまいりましたが、今年9月にはタクトで初めての取り組みとなる市民と一緒に創り上げる事業「つるおか市民で歌う第九」公演を開催します。鶴岡では実に20年ぶりの第九ということもあり、定員を上回る参加申込みをいただき、鶴岡が合唱都市であることを改めて実感しました。

5周年を迎え、今後はより先を見据えた事業を展開していくこと、ご利用いただく際に利用者目線で寄り添った対応をさせていただくこと、また、市民から愛される施設になることを目標に努力してまいります。(丹羽もも子記)

特定非営利活動法人 鶴岡市芸術文化協会 部門別加盟団体・地域芸術文化協会一覧 (67団体)

地域・部門	団体名称	代表者	電話
地域	藤島芸術文化協会	阿部 義郎	64-2111
	羽黒芸術文化協会	齋藤 敬	62-2111
	櫛引芸術文化協会	難波 正喜	57-2111
	朝日芸術文化協会	清野 吉喜	53-2111
	温海芸術文化協会	本間 庸枝	43-4611
文芸	きたぐに短歌会	芳賀 昌子	22-3117
	黄雞鶴岡歌会	山口 園枝	24-3276
	稲京短歌会	佐々木 秀子	23-9665
	俳誌「月山」鶴岡支部	阿部 月山子	64-5302
美術	白鸞社	齋藤 拓	33-1073
	鶴岡書道会	山本 良伸	33-4246
	畊雅会	阿部 律子	23-1323
	鶴岡小品盆栽会	上林 節男	22-1935
	如月会	梅本 幸仙	33-3425
	鶴岡和紙ちぎり絵サークル	小澤 紀美	24-6701
	庄内写真研究会	佐藤 時彦	24-3285
	鶴岡さつき盆栽研究会	岡部 誠	24-7844
	フォトサロン写楽	菅原 健一	23-2506
	書道研究飛雲会	渡部 飛雲	22-2344
	ステンドグラス“光彩”	東海林 宏子	62-3824
	◎庄内文化センター写真教室	菊地 勝春	25-3998
	◎庄内水彩画会	鈴木 幸治	0234-26-2598
	邦楽	錦心流琵琶全国一水会鶴岡支部	市川 清治
宝生流鶴岡五雲会		岡 眞理子	23-3074
山形県大正琴・文化箏愛好会		梅津 芳春	22-0770
鶴岡竹友会		佐藤 晃	23-9028
高橋理香箏アンサンブル		高橋 理香	090-9425-8824
庄内竹道会		渡部 滋人	23-9139
庄内謡曲愛好会		西澤 雪子	25-5927
日舞	佳興の会	岡 政雄	23-3074
	藤静会	藤間 静貴久	22-1746
	千川流	千川 貴楽	0234-24-4516

地域・部門	団体名称	代表者	電話
民謡・民舞	さゞ波会	佐藤 睦	35-3115
	淡井会	山本 淡井	24-5447
吟詠	日本九重流鶴城清吟会	佐藤 謙	35-2605
	九重流詩吟学会朝陽清吟会	百瀬 皓洲	23-1344
	剣聖流剣詩舞鶴岡剣聖会	佐藤 昌直	23-8510
民俗芸能	田川民話の会	帯刀 春男	53-2617
洋楽	鶴岡土曜会混声合唱団	阿部 淳二	23-9997
	鶴岡放送児童合唱団	伴 和香子	22-6399
	バウムクーヘン	石澤 真紀	25-7429
	スイング・クレインズ・ジャズ・オーケストラ	橋本 祥造	25-0702
	鶴岡吹奏楽団	大場 輝和	33-1000
	鶴岡響友会音楽団	堀 公明	22-5602
	鶴岡ジュニアオーケストラ	深澤 康之	22-9484
洋舞	鶴岡ウインドアンサンブル	加藤 聡	25-3227
	荘内金管合奏団	伊藤 聡	25-3227
	吉続舞踊学園	吉續 正義	22-5968
	V i V i バレエスタジオ	佐藤 京子	22-1667
	ハウオリプラススタジオ	伊藤 久美子	0234-24-2450
演劇	ニケラベリーダンスカンパニー	地主 裕子	25-5305
	◎レーヴ・バレエスタジオ	眞田 優	0234-22-6173
	劇団いでは	大館 一治	53-3052
茶	劇団だいこん座	佐藤 秀樹	23-5735
	表現舎刻一刻	佐藤 正一	73-3153
	出羽庄内市民ミュージカル若手塾	大井 卓磨	66-2066
華道	大日本茶道学会鶴岡支部	熊田 広樵	22-1256
	裏千家淡交会庄内支部鶴岡地区	富樫 宗富	23-1553
	表千家同門会山形県支部庄内地区	日向 宗節	0234-56-2482
大衆芸能	遠州流茶道山形支部	堀 宗敬	73-2148
	古流松應会庄内支部	古本 理暁	24-6590
	一般財団法人 小原流鶴岡支部	宮田 眞由美	62-2884
	草月会山形県支部鶴岡地区	本間 賀苑	57-3243
	池坊	富樫 秀月	24-0813
	遠州山形支部	中野 美千	22-7757
	華道栖草流鶴岡支部	庄司 栖和	23-8704
	◎庄内なつメロ会	奥村 洋子	24-1282

◎印は新規加盟団体 (令和5年9月現在)

編集後記

当会が指定管理を行っている、荘銀タクト鶴岡が開館5周年を迎えました。開館5周年記念事業として、山形交響楽団と市民による第九の合唱が行われます。この公演の為に結成した「タクトつるおか合唱団」が日本のトップレベルのソリストと共に歓喜の歌を歌い上げます。その姿はきっと多くの市民に感動を与えることと思う。

コロナの行動制限が無くなりマスクの着用も緩和され社会全体が通常の行動に戻りつつあり各団体の活動も本格的に行われております。その結果今年の芸術祭は素晴らしい成果が期待できるものと思われまます。

閉幕のつどいを楽しみたい。

(小林健郎)

特定非営利活動法人 鶴岡市芸術文化協会事務局

〒997-0346 鶴岡市上山添字文栄100番地 鶴岡市櫛引庁舎内

Tel : 0235-57-2008 Fax : 0235-64-0515

E-mail : tsurugeibun@tiara.ocn.ne.jp

<https://tsuruoka-geibun.or.jp>

トップ画面のQRコード

